

## 専門学校 神田外語学院 学校関係者評価報告書

学校法人 佐野学園  
専門学校 神田外語学院  
学院長 今井 実

学校法人佐野学園 専門学校神田外語学院 学校関係者評価委員会は、令和4年度自己点検評価報告書の結果に基づいて学校関係者評価を行いましたので、下記の通り報告いたします。

1. 実施日：令和7年6月25日(水) 14:00～16:00

2. 場 所：専門学校神田外語学院 10号館4階 401教室

3. 出席者：

・学校関係者評価委員

宮田保美	千代田区内神田旭町々会 会長
鈴木國仁	卒業生、株式会社ベルージュ代表取締役
田中清美	卒業生、卒業生保護者
嶋田京一	株式会社風カルチャークラブ代表取締役

・本学教職員

今井 実	学院長
糊沢 聡	事務局長／学生支援部ゼネラルマネージャー
杉本 雅視	事務局長補佐
池田 政隆	教務部ゼネラルマネージャー
三村 英男	アドミッション&コミュニケーション部アシスタントゼネラルマネージャー
松平 健二	総務部ゼネラルマネージャー

4. 実施方法、公表：

学校関係者評価の実施にあたっては、令和6年度に実施した「自己点検評価」を学校関係者委員の皆様にご確認頂き、自己点検評価の各項目に対する評価とご意見を頂きました。  
評価結果は、今後の本学における教育活動や学生指導等、学校運営の改善に活かし、ホームページ等に公表いたします。

5. 学校関係者評価・意見

評価項目に対する学校関係者の評価及び意見、提案（以下、評価等という）をご報告いたします。

評価	A. 適切	B. ほぼ適切	C. やや不適切	D. 不適切
----	-------	---------	----------	--------

## I 教育理念・目的・育成人材像

中項目	小項目（指標）	学校関係者評価
【1-1】 理念・目的・育成人材像	1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	A（4名）
	2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	A（4名）
	3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	A（4名）
	4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	A（4名）

理念、目的、育成人材像は明確に定められ、専門分野に関する各業界のニーズにも適合している。特色ある独自のプログラムを積極的に取り入れる事で、社会の変化するニーズに対しても柔軟に対応する姿勢もある。

## II 学校運営

中項目	小項目（指標）	学校関係者評価
【2-2】 運営方針	5 理念等に沿った運営方針を定めているか	A（4名）
【2-3】 事業計画	6 理念等を達成するための事業計画を定めているか	A（4名）
【2-4】 運営組織	7 設置法人の組織運営を適切に行っているか	A（4名）
	8 学校運営のための組織を整備しているか	A（4名）
【2-5】 人事・給与制度	9 人事・給与に関する制度を整備しているか	A（3名）、B(1名)
【2-6】 意思決定システム	10 意思決定システムを整備しているか	A（4名）
【2-7】 情報システム	11 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	A（4名）

職員に周知徹底されている建学の理念を具現化するべく運営方針、事業計画が明確に定められている。学生管理系、業務系、教育系において、情報システムが整備されていることを確認した。また教員人事関連において今後の取り組むべき課題がある点を理解した。

### III 教育活動

中項目	小項目 (指標)	学校関係者評価
【3-8】 目標の設定	12 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	A (4名)
	13 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	A (4名)
【3-9】 教育方法・評価等	14 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	A (4名)
	15 教育課程について外部の意見を反映しているか	A (4名)
	16 キャリア教育を実施しているか	A (4名)
	17 授業評価を実施しているか	A (4名)
【3-10】 成績評価・単位認定等	18 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	A (4名)
	19 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	A (4名)
【3-11】 資格・免許の取得の指導体制	20 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	A (4名)
	21 資格・免許取得の指導体制はあるか	A (4名)
【3-12】 教員・教員組織	22 資格・要件を備えた教員を確保しているか	A (4名)
	23 教員の資質向上への取組を行っているか	A (4名)
	24 教員の組織体制を整備しているか	A (3名)、B(1名)

学科毎の目標設定は明確に定められている。カリキュラムも適正な内容、方法論で構築され、学生のニーズ、社会のニーズへ柔軟に対応、その評価も適正に行っている。成績評価や単位認定についても内容を明示、周知し、厳格に運用している。教育の質向上を第一義とし、それを支える教員についても資格・要件、並びに人間性をも加味した厳正な選抜採用を実施している。教員としての資質向上のためのワークショップ開催や研修等も積極的に行い、適切に機能している。別項の通り教員人事体制に今後取り組むべき課題がある点を認識している。留学生受入れ増も含め、質的に変化している学生に対する学校側の対応に注目したい。

#### IV 学修成果

中項目	小項目（指標）	学校関係者評価
【4-13】 就職率	25 就職率の向上が図られているか	A（4名）
【4-14】 資格・免許の取得率	26 資格・免許取得率の向上が図られているか	A（4名）
【4-15】 卒業生の社会的評価	27 卒業生の社会的評価を把握しているか	A（3名）、B(1名)

卒業生の進路の約半数を占める就職希望者に対する支援体制は整備されており、活動者についてほぼ例年通りの内定率を獲得する結果を得ている点の評価する。卒業生に関して、その幅広い分野でのなお一層の活躍を期待するとともに、ホームカミンググデーの実施等卒業生リレーションの強化に関して、今後も継続してほしい。また卒業後に海外大学等に進学・編入した学生についても、その後の進路を把握することは有意義であることからこの取り組みを期待したい。

## V 学生支援

中項目	小項目（指標）	学校関係者評価
【5-16】 就職等進路	28 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	A（4名）
【5-17】 中途退学への対応	29 退学率の低減が図られているか	A（3名）、B(1名)
【5-18】 学生相談	30 学生相談に関する体制を整備しているか	A（4名）
	31 留学生に対する相談体制を整備しているか	A（4名）
【5-19】 学生生活	32 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	A（4名）
	33 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	A（4名）
	34 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	A（4名）
	35 課外活動に対する支援体制を整備しているか	A（4名）
【5-20】 保護者との連携	36 保護者との連携体制を構築しているか	A（4名）
【5-21】 卒業生・社会人	37 卒業生への支援体制を整備しているか	A（4名）
	38 産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	A（3名）、B(1名)
	39 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	A（1名）、B(3名)

進路に対する支援体制は全体として充実しており、就職、大学編入、留学とそれぞれ進路別に専任の職員とカウンセラーからなる部署を設置し、支援にあっている。学生生活支援についても、担任制によるきめ細かいケアを始め、健康面では医務室、心理面では学生相談室において専門のカウンセラーを配置するなど、体制は維持されている。一方で退学率に関しては引き続き懸念するところである。学生の質的变化がある背景は理解するところだが、委員会にて討議した通り、人的対応のみならず体制、システムの変更等への取り組みが必要であろう。一方、経済的な問題を抱える学生については、保護者との連携の下、各種奨学金受付や制度の紹介を積極的に行っている点を確認した。卒業生・社会人に向けては、英語やIT系の勉強会等を実施するなど検討されることを期待する。

## VI 教育環境

中項目	小項目 (指標)	学校関係者評価
【6-22】 施設・設備等	40 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	A (4名)
【6-23】 学外実習・インターンシップ等	41 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	A (4名)
【6-24】 防災・安全管理	42 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	A (4名)
	43 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	A (4名)

教育環境としては概ね、適正な整備がされており、計画的な修繕や更新が実施されている。在学生のみならず、教職員の環境整備にも注力し、法定点検もクリアしている。防災に対する意識も高く、消防計画などに基づいた点検や検査の実施、防災避難計画を持っている。防犯面、安全管理面にも設備投資を行い、安全かつ快適なキャンパスライフを送れるよう適切な配慮がなされている。近年留学生が増えている中、地震等の災害時における避難方法について、その説明方法等に工夫・改良がなされることを期待する。

## VII 学生の募集と受入れ

中項目	小項目 (指標)	学校関係者評価
【7-25】 学生募集活動	44 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	A (4名)
	45 学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか	A (4名)
【7-26】 入学選考	46 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	A (3名)、B(1名)
	47 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	A (4名)
【7-27】 学納金	48 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	A (4名)
	49 入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	A (4名)

学生募集は厳しい局面を、広報アプローチの変更や留学生受入れ拡大によって乗り越えようとしている姿勢とその結果が伺えた。中でも学校情報発信については様々な媒体を駆使し、募集活動全般に亘り適切に行われている。またデジタル化への対応に取り組んでいる点を評価する。入学選考にあたり、継続して丁寧な試験実施及び合否判定がなされることを期待する。留学生の入試選考について様々な取り組みを進めている点を確認した。経費内容に対応し学費の改定を行ったことを確認した。入学辞退者については文部科学省の通達に基づき募集要項に明記の上、判例に準じて適正な取扱いを行っている。

## VIII 財務

中項目	小項目（指標）	学校関係者評価
【8-28】 財務基盤	50 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	A（4名）
	51 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	A（4名）
【8-29】 予算・収支計画	52 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	A（4名）
	53 予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	A（4名）
【8-30】 監査	54 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか	A（4名）
【8-31】 財務情報の公開	55 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	A（4名）

単年度事業活動収支に関して回復傾向にあることが伺え、また学園としての財務基盤は良好と判断できる。中長期経営計画に基づき、財務分析も適切に行われている。予算・収支計画は単年度、中期に亘り策定されており、適正に執行管理されている。会計監査についても適切に実施され、現状特段の指摘事項はない。また学内監事により公認会計士との連携の下、理事会・評議員会に上程され、これについても適正と判断されている。その情報はホームページで広く公表されており、透明性のある経営と判断する。

## IX 法令等の遵守

中項目	小項目（指標）	学校関係者評価
【9-32】 関係法令、設置基準等の遵守	56 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	A（4名）
【9-33】 個人情報保護	57 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	A（4名）
【9-34】 学校評価	58 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	A（4名）
	59 自己評価結果を公表しているか	A（4名）
	60 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	A（4名）
	61 学校関係者評価結果を公表しているか	A（4名）
【9-35】 教育情報の公開	62 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	A（4名）

学院長はじめ教職員全体にコンプライアンス重視の意識が行き渡り、コンプライアンス及び個人情報保護の観点から制定された規程まで、法人の定めた諸規程を教職員に知らしめることにより統治が図られている。学校評価についても適切に実施、公表されている。情報公開についてはウェブサイト、入学案内等により、積極的に公開すると共に、英語指導者、英語学習者を対象としたイベント開催などを通じて積極的に教育情報の公開を行っている。

## X 社会貢献・地域貢献

中項目	小項目（指標）	学校関係者評価
【10-36】 社会貢献・地域貢献	63 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	A（4名）
	64 国際交流に取り組んでいるか	A（4名）
【10-37】 ボランティア活動	65 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	A（4名）

オンラインによる国際交流などに積極的に取り組み、またその活動が発展していることを評価する。ボランティア活動に学生が積極的に参加している様子が伺えた。近年取り組みを強化していると見える地域との協働、地域のイベントへの参画について、今後さらに積極的に取り組んでいかれることを期待する。

### 総評：

令和7年度の自己点検評価上記37項目については、概ね各項目において適正という評価を得られた一方で、厳しい意見も賜った。委員諸氏からの指摘と当委員会で議論された内容を取り入れ、今後も教務、学生支援、学生募集ならびに学校運営基盤の堅持に取り組みたい。学校運営においても厳しい場面が増えていくが、いただいた評価を叱咤と受け止め、この時期を乗り越え、さらなる飛躍につなげられるよう努めていきたい。

学院長 今井 実